

第48回 セルフケア事例検討会 レポート

令和元年5月25日(土) 13:30~16:00、星ヶ丘病院より事例と会場をご提供いただき、セルフケア事例検討会を開催いたしました(参加者44名)。

事例検討会の前には本学チーム精神看護の佐藤利憲から「発達障害への支援」と題したテーマでペアレント・トレーニングに関するミニレクチャーを実施いたしました。アンケートでは「当病棟の患者さんの顔が浮かび、対応が逆効果であったことを痛感しました」「ほめるという技術(意識的に・計画的に・ほめられているとわかるように)を学ぶことができ、実践に取り入れたい」といった感想が寄せられました。

事例検討会は長期入院患者の地域移行がテーマとなりましたが、長期入院ながら多くのストレングスを持っていること、それが事例提供者の丁寧なかかわり・対話の中で生まれ、発揮できていることが実感できる事例でした。アンケートでは「スタッフが患者さんと丁寧に向き合い、丁寧に関わっている実際を理解できた。そしてその効果が現れていることが素晴らしいと感動した。」といった感想が多数寄せられました。参加者の方々からたくさんのご意見を頂き、「本人の希望に沿う形での地域移行」に向けたケアの方向性、その具体的な戦略について考え合うことが出来ました。アンケートでは「本人の可能性について話し合う機会に参加でき、とても楽しかった。35年入院していて社会との交流がない人はとても不安を持っていると思うし、そこに私たちの『ふつう』を押し付けるのではなく、本人のペースで意に沿って進めていかなければと思った。」といった感想が寄せられました。

事例に関わっていらっしゃる作業療法士や心理士、精神保健福祉士の方の参加もあり、さまざまな視点で事例を考えることができ、充実した事例検討会となりました。

